広報
長洲

発行者長洲町中央公民館
発行人　藤末　副
編集者　広報長洲編集部
印刷所　玉名新聞社

昭和38年第8回　町定例議会開催

38年度追加更正　予算等上程審議　教育委員、選管委員等選任

十二月五日から、菜切川、浦川両河川の早期改修、長洲登記所の存置、長洲港の整備等の陳情のため上京していた町長、議員、総務課長の一行十名が十一日に帰町したのを待って、昭和三十八年第八回の定例町議会を十八、十九日の両日開らき、議案十八件を審議可決し、任期満了に伴う選挙管理委員の選挙を行ない新委員四名、同補充員四名を選出した。議案は次の通りである。

▽第六七号　昭和三十八年度長洲町歳入歳出追加更正予算について

▽第六八号　昭和三十八年度国保特別会計（事業勘定）歳入歳出追加更正予算について

▽第六九号　昭和三十八年度ブルドーザー特別会計歳入歳出追加更正予算について

▽第七〇号　長洲町ブルドーザー使用条例の一部改正について

▽第七一号　長洲町国民健康保険税条例の一部改正について

▽第七二号　教育委員会委員の任命について

▽第七三号　固定資産評価審査委員会委員の選任について

▽　選挙管理委員会委員の選挙について

▽第七四号　長洲中学校屋内運動場建築工事の請負契約の締結について

▽第七五号　昭和三十七年度歳入歳出決算認定について（一般会計）

▽第七六号　右同国保事業勘定

▽第七七号　右同国保施設勘定

▽第七八号　右同上水道特別会計

▽第七九号　右同ブルドーザー特別会計

▽第八〇号　議決事項（営農維持資金の融資に関する利子補給）の一部追加について

▽第八一号　予算外義務負担について

▽第八二号　公有水面埋立追認に関する答申について

▽第八三号　長洲町報酬及び費用弁償条例の一部改正について

▽第八四号　長洲中学校特別教室（技術室）増築工事の請負契約の締結について

▼人　事▲

任教育委員　林田　賢（腹赤新町）　六三才

任固定資産評価審査委員　高松貞孝（東荒神）　六〇才

選挙管理委員会

委員長　浦　辰男(60)立野
委　員　浦島敬之(50)出町
〃　西辻　学(58)腹赤
〃　浜北重海(42)建浜

同補充員（番号は序列を示す）
1、本山照弘(44)下東町
2、石本重之(55)上沖洲
3、西本二雄(65)塩屋
4、叶　孝一(53)下磯町

▼工事請負契約

◎長洲中屋内運動場建築工事
長洲町大字長洲三、三三一
山本組代表　山本忠次
契約金額　壱千参百拾五万円

◎長洲中特別教室（技術室）増築工事
長洲町大字長洲一、五一七
栗原工務店　栗原謙蔵
契約金額　百四拾五万五千円

（林田）

「農民の祭典」

第2回　長洲町農業祭開催

十二月十六、十七日の両日

「農民の祭典」第二回長洲町農業祭は十二月十六日、十七日の二日間、長洲町中央公民館で開かれた。

主催は長洲町。農業委員会。農協。各農業関係研究団体で農業発展の姿を行事を通して町民に知らせるとともに農業の経営や技術の改善について意欲を高めようというものである。

行事は十六日長洲町中央公民館で、農産物品評会及び産業写真展、十七日は、農事体験発表会引続き「新産業都市と農業経営」と題して、農学博士　大田遼一郎先生の農事講演会、午后は農業祭参加行事の表彰式が行はれ、最後に農産物の即売会が催され、その幕を閉じた。

農事体験発表者次の通り。

「過去五年間の密柑経営」梅田島田一馬氏。「産卵率と淘汰率」塩屋竹本益雄氏。「蔬菜栽培について」折地本田恭二。「私の酪農経営」立野、浦英達氏。

農業祭参加行事入賞者次の通り（一等のみ）

苗代品評会一等、平原、酒井光雄。果実品評会ぶどう特等、折地、松尾竜人。密柑園立木品評会、幼木一等、清源寺、宮本生二。成木一等、梅田、島田一馬。水稲多収穫品評会特等、平原、松野誠治　耕うん機農作業競技大会一等、永方、村岡典男。籾摺包装競技大会、籾摺一等、長洲、戸次巽。包装一等、梅田、土山博道。農産物品評会、鶏卵一等、赤田、小井手雪夫。塩屋竹本益雄。梨一等、島添秋義。密柑一等、梅田、土山清。深葱一等、建浜、福田勇。甘藍一等清源寺、村上三徳。馬鈴薯一等葛輪、田村一吉。

▶お知らせ◀

新年名刺交換会　長洲保育園で

虚礼廃止のため、新年名刺交換会を左記により行ないますので、趣旨にご賛同の上、多数ご参集下さい。

記

一、日時　昭和三十九年一月一日午前十一時
一、場所　長洲町保育園
一、会費　百円（当日ご持参下さい）

昭和三十八年十二月二十八日
長洲町長　古閑二夫
町民各位

▼成　人　式▲

来る一月十五日「成人の日」に、左記により例年通り成人式を行ないますので、成人者は全員お集まり下さい。

記

一、日時　一月十五日午前九時
一、場所　長洲町中央公民館
一、成人者　昭和十八年四月二日より十九年四月一日までに出生の人
一、記念品　桃柿の苗木

◎成人者の感想文募集
一、成人となりて
二、私たちはこんな人になりたい
三、私の職業を語る
四、その他自由課題
締切　一月七日午後五時
提出先　中央公民館
入賞者には賞品賞状を贈る。

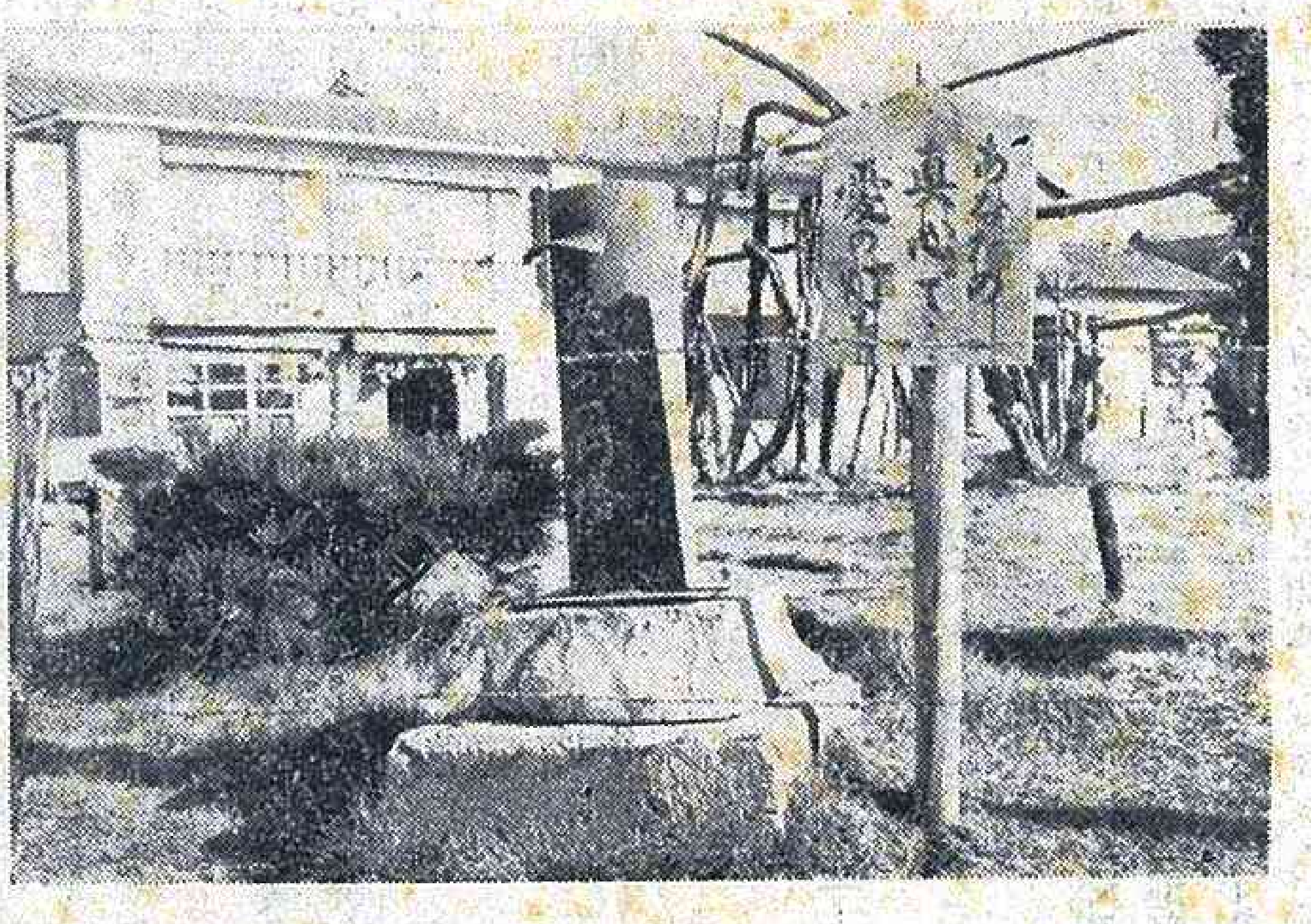
歳末に拾う　善意二題

長洲町にはじめて「愛の一円塔」建立

西荒神町の徳丸五男さん

あなたの真心で　愛の灯を

あわただしい師走の街角に、「愛の一円塔」が三ケ所建っているのをご存じでしょうか。一つは航送船広場に、一つは四王子神社前に、一つは長洲駅前に建っている。



徳丸氏建立の「愛の一円塔」

長洲町にはじめて「愛の一円塔」が建ったのは、昭和三十六年三月、西荒神町の徳丸五男氏（63才）が観光客の一番多く通る航送船広場に建てたものである。第一回が一三二四円集まったので、徳丸さんが二百円私財を加えて、一五二四円にして、昨年役場の社会福祉協議会に寄附して、歳末助け合いの費用に充てられた。今年は、八九五円集まったので、徳丸さんは私財を千円加えて、一八九五円歳末助け合いに寄附された。

とかく、せちがらい世の中で率先して私財を投じ「愛の一円塔」を建立し、浄財を集めて、幸薄い人々のために尽していられる行為は誠にりっぱである。

筆者が徳丸さんを訪ねた時、健康を害して病床にふしておられたが、初めて「愛の一円塔」を建てられた時の話から、いろいろと最近のことまで話して下さった。

三八年十一月中旬には、長洲町の社会福祉協議会が、駅前と四王子神社前にそれぞれ一つずつ建てて道行く人たちに募金を呼びかけるようにされたので、三つの「愛の一円塔」が、歳末の長洲町に出現したわけである

薄い黄色の「愛の一円塔」には、こう書いてある。

〃皆様方の一円の御協力
愛の一円塔
一、すべての児童のしあわせの為に
一、恵まれることの少ない気の毒な
一、環境を明るく犯罪をなくする為に
長洲町社協〃

（林田）

もう二度と繰り返すまい　水難事故

子安地蔵尊建立

東荒神町校外生活指導推進会

浦川河畔の子安地蔵尊

長かつた夏休みも終り、子供会世話人一同ほつとひといきついて気をゆるめたのが大きな間違いだつた。

去る九月七日午後三時頃当区児童会の会員（一年生）がトンボ取りに行き、あやまつて水死した。

当区では、同日早速児童代表と世話人が集り、事故の原因や今後の事故防止対策等話し合い何はともあれ自分達の指導力の貧しさ故であることを痛感した次第である。

なお、その席上亡くなつた児童の霊を永久にとむらい、再びこのような非しみを繰返えさぬよう祈願をこめて由縁の地浦川に地蔵尊を建立することを決定した。

翌日（八日）、このことについて児童会を開らき意見を聞き十三日には推進会を開らき、正式の決定を見た。その後、区長さん方とも交渉を続けて準備に取りかかつたが、色々の難問がつぎつぎに進行をはばみ、長い期間足ぶみの状態が続いたが老人会（代表塩山ハツエさん）の方々がみづから進んで奉賀された浄財が大きな助けとなつて地蔵尊建立の実現を見ることができた。

その他、特筆したいことは、塚本ツタ、中逸テル、島崎ハツメ、徳永モサ、松野ムツ、高谷サタト、小原ミツエ、大石ムツ酒井ミハル、杉野キワ、木村ヨシ、森川チジエ、織田フジエ、平田スエノ、梅崎イツ、松野セツ、松野ヌイ、伊藤マト、島原屋呉服店、有明舘氏二十名によつて中町に建立してあつた観世音様の石垣を中町区の平田（煉炭屋）さんのご努力と先記の方々のご理解によつて寄贈していただいたことである。

このように四囲の方々の深い理解とご協力が地蔵尊建立を早めたことは事実である。

また去る十二月十一日には、本吉本山の清水寺から鍋島住職のご来光を得て、開眼式並びにこの地で亡くなられた七名

千代原力君（東荒神町）
高松誠志君（〃）
大関　君（大明神町）
前田　様（〃）
宮本　君（新町）
木下　翠様（多良木町）
不　詳　一名

の方々の供養を行つたが、町はじめ、公民館、小中学校、青少年問題協議会等、関係深い多数の方々のご来席を得ましたことは、遺族並びに発起人一同心から厚くお礼申しあげます。

東荒神町区校外生活指導推進会々長　徳永　貞知

学力調査結果の成績

当町立小学校で学級児童数の最も少ない学校が県平均を上まわっているのが目立つ

教育長　長嶺朝良

本年度全国学力調査は小学校は六月二十六日、五、六年生の社会、理科の二科目について、中学校は同二十六、七両日に二三年生の国語、社会、理科、数学、英語の五科目について実施されその結果の県の成績が去る十二月四日の熊日新聞で発表された。

この県下の平均点を上まわつている町内の学校が学級児童数の少ない小学校であつて五年の社会が、三・八点、理科〇・八点六年で社会が四・四点理科二・八点上回つているのが特色といえよう。各教科別の百点満点換算による県及び、当町の平均点は別表の通りで小学校で五年の社会、四・八点、理科四・四点六年で社会四点、理科四・四点下回り総じて、四点から四・八点までの下回りである。

中学校では二年の国語、一・五点数学一・八点理科二・三点英語二・四五が下回り社会が〇・五点上回り三年では国語が三・〇五点、社会が〇・八点、数学が一点、英語が四点下回り、理科が〇・七五点上回り総じて英語の四点下回りを除いて県平均に近づき、二年の社会と三年の理科が上回つているのは、校内テストを根気よく続けていることが、その原因の一つとも考えられる。

教育委員会では、去る十月十六日、学力調査反省研究会を開き各学校で、科目別、問題別に研究分析した資料を各分科会で討議し全体会で、この討議結果の説明あつて、今後の指導資料としたが、学校教育でも家庭教育でも、環境の整備が最も必要であることを痛感する次第で、学力の向上については、来年度も学校教育努力目標として続けていきたい。

小学校	5年			6年		
	全国	県	町	全国	県	町
社会	58.8	56.8	52.0	56.0	54.8	50.8
理科	64.0	63.6	59.2	58.0	58.4	54.0

中学校	2年			3年		
	全国	県	町	全国	県	町
国語	54.8	51.0	49.50	56.5	52.3	49.25
社会	57.0	53.0	53.50	44.5	42.3	41.50
数学	41.3	36.3	34.50	44.5	40.0	39.00
理科	41.8	40.3	38.00	46.8	44.0	44.15
英語	58.5	53.8	50.25	56.8	53.5	49.50

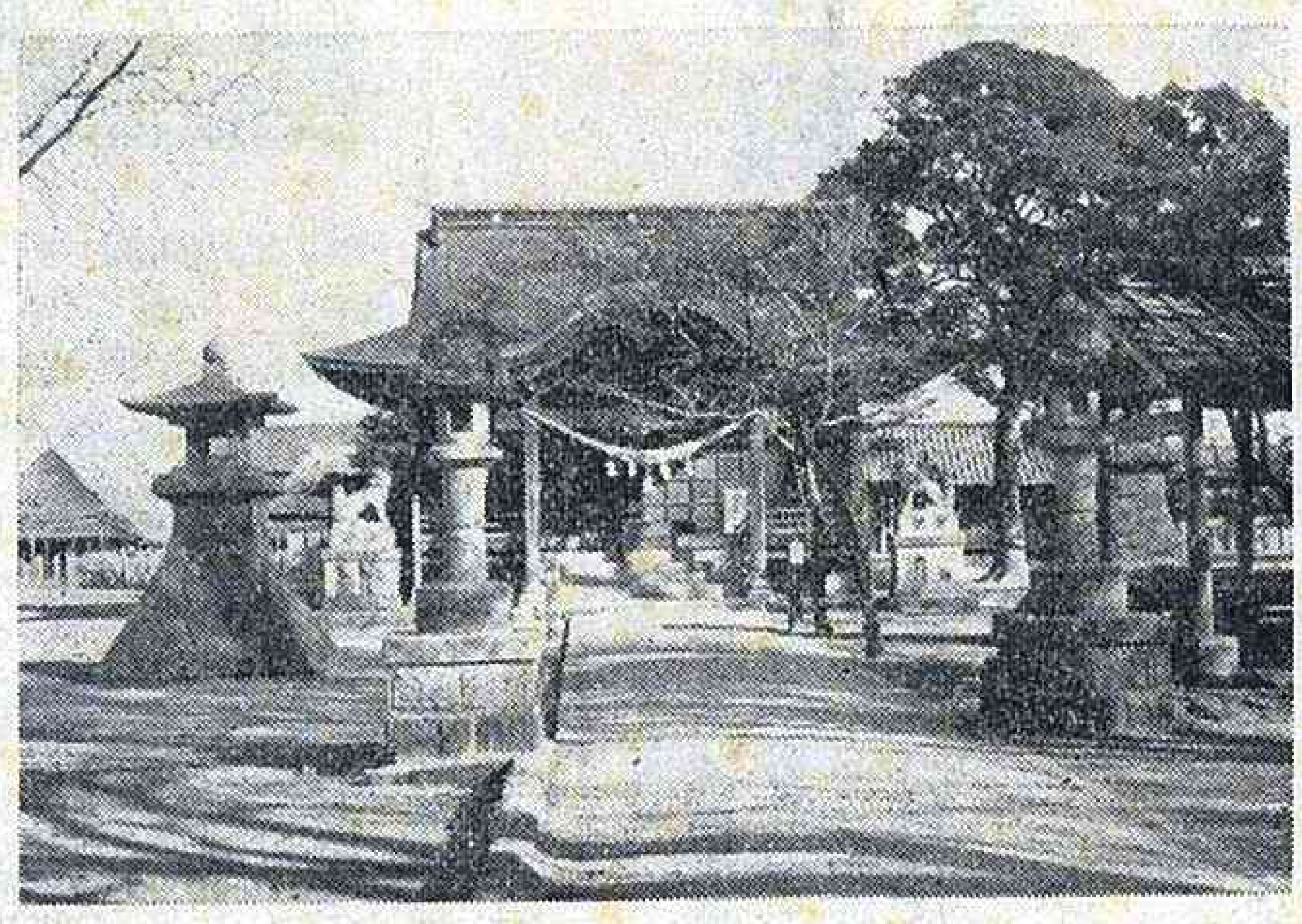
郷土の遺蹟を訪ねて

四王子神社

私たち長洲町民の氏神様として日夕崇敬する四王子神社のご祭神を日本武尊と申しあげます

社記によれば、今からおよそ八百年前、二条天皇の永歴元年（西歴一、一六〇）九月、筑前国（福岡県）三笠郡四王子嶽から長洲（須）々崎の浜の岩屋（現在の新塘内側の小高い丘陵地俗に古大明神さんといわれるところ）に来現され、お祭りした後、現在の社床（境内地四反弐畝余）にご遷宮申しあげたと伝えられております。

四王子神社の名称は、この四王子嶽に起因するものです。そもそも、人間この世に生活する限り、各自の心の頼りどころとして、必ずや神仏を崇敬し、安心の場所を求め、そこに神社寺院の建立を見ます。古来信仰心のない人はなく、良きにつけ悪しきにつけ、人力を以つてしてはいかんともなしがたきとき、超人的偉大な力、加護を持たれる神仏に頼るものであります。その御加護によつて毎日毎日をより幸福に過していくのです。信仰心のない人間は人形や禽獣に等しいものであります。私たち氏子の日夕崇敬する氏神様は、皆様ご承知のように、まことに気は優しくて力持ちのお方で勧善懲悪の守護神であり、遠い昔、上代において、国内乱れ悪者はびこり、国民の苦しみ多大であつた当時、人皇十二代景行天皇の命をうけて、西は九州の熊襲征伐、東は東北の蝦夷を討伐され、当時の日本全土の平穏と国民の災厄排除　安寧幸福とを計られたお方である。このように氏神様は斗争を好まれず常に円満と平和をモツトーとされた。又、尾張にご滞在中、伊吹山（滋賀県）の邪神退治の折、たまたま、病をえて急ぎ伊勢神宮にお帰えりの途中、不幸にも能褒野で崩御され、霊魂は白鳩となつて昇天されました。



四王子神社

ご祭神は身分は皇太子でありながら、天皇の位に即かれることもなく、その一生は、一日も席の暖まる暇もなく、常に皇室及び国民の幸福平安を保つために身命をかけてお働き下さつたのであります。思えば、まことにお気毒なお方であります。因みに、長洲町の無形文化財ともいうべき破魔弓祭（的ばかい）はこのご祭神のご神徳を敬仰し且つ、そのご加護によつて、長洲町全氏子の一年間の諸災厄排除と円満、安寧幸福、家運長久とを年頭に当り祈願するお祭です。従つて、的ばかいには、他の競技と違い、勝敗はないのです。ただ、長洲町及び全氏子崇敬者の円満幸福発展を期するものです。

境内地域内には、祇園社、諏訪社、天満宮、その他、子供の守護神、歯の神様等をお祭りしたお社殿があります。なお、ご祭神のご神徳霊験あらたかなマムシ除け及び蛇類一切の災厄除けのお砂守が当神社にあります

旧長洲町の地域内には、古来マムシの姿を見ず、又、マムシに噛まれた者なしといわれております。マムシ禍排除お砂守の由来は、前述の通り、ご祭神が伊吹山の邪神退治に起因します

即ち、ご祭神が伊吹山の邪神退治の際、邪神がたまたま毒蛇に化身してご祭神を苦しめたので、ご祭神は大急ぎで下山され麓の河原に出られて、禊を遊ばされ、ようやく元気をとりかえされたことに因るものであります。

（松田茂穂）

▽　△

▽　△

教育委員長に就任して

林田賢

不肖私は三選六年間教育委員を拝命しまして、今回は年令的にも、それから又重要なポストを一人で独占してもいかがかと考え今度は遠慮したいと思つておりましたが、又任命を受け感激且つ恐縮している次第であります。

教育委員というものは大変仕事の多い公職で、月の内七日も八日も出て行くことが稀れでなく、それが難しい問題ばかりで時には身心疲労し、辞めようか――と意欲を失いかけることもしばしばでありますが、たまたま通りかゝる学校近くの道で、教室の窓から洩れて来る授業中の書を読む声を聞き、或は校庭で群れ遊ぶ子供達の姿を見ると、この子供達のために「出来るだけのことをしてやらねば……」と再び気を取り直し意欲を振い起して今日迄続けて来ました。今回はこれが町に対しての最後の御奉公と思い、駑馬に鞭つて務むる覚悟でありますのでどうかよろしく御願い致します

それから今度私は委員長を相務むることになりました。前委員長の浦島先生は繁忙な御職業にもかゝわらず三年間も委員長を務められさぞ御迷惑のことであつたろうと感謝しております昨年より辞意を洩らしておられましたので私不肖の身をも顧みず年長の故をもつて引受けました。立派な前委員長のようには出来ますまいが、四名の委員方の御協力を得て懸命に務めたいと思つております。

長洲町には施設面、教育面共重要な問題が幾つも控えていてこれが遂行には委員会として容易ならぬ努力と覚悟を要しますそしてこれは町民の方々の御協力なくしては到底出来得ないことであります。

大方の御指導と御支援を心より御願いしまして御挨拶と致します。

明るい社会を築くために

長洲町婦人会長代表

土田ツヤ子

いよいよ今年もおしせまつて参りました。師走ともなれば何となしに周囲があわたゞしくなつてきて落ち着かなくなりましたが、私達長洲町婦人会は十二月十四日、今年最後の中央婦人学級を終えました、振り返つて見ますのに四月以来月々の研修会は大変勉強になつたことをうれしく思います。

いよいよ一月には郡婦連により計画されました玉名地区別研究会の最後をかざる中央婦人学級を開催しなければなりません各校区婦人会に於かれましてはそれぞれの研修を活溌に遂行されつゝあることと思いますが来年もますますご努力下さいますようお願い申し上げます。

なお十二月十二日玉名郡理事会におきまして本年中の実行事項について左の事柄が決定されました。

一、日の丸をかかげましよう。

二、悪書を追放しましよう。

三、わが家、わが村、わが町に良い青少年を育てましよう。

日の丸運動については、

祝祭日には各戸にもれなく国旗をかかげましよう。

悪書追放運動については

先に県婦連において調査検討されました結果二十種にのぼる雑誌名が悪書として取り上げられこれ等の雑誌については熊本市ではすでに各書店主も協力されまして追放にのり出されました。その書名は別紙プリントによりお知らせ致しますので、そのような読物には充分注意され、私達婦人の手により追放しようではありませんか、なおご主人におかれましても明るい社会を築くために、なにとぞご協力下さいますようお願い致します

良い青少年を育てる運動については、

郡婦連より「わが家、わが村わが町に良い青少年を育てましよう」、というビラが配布されることになつています、最近青少年の犯罪がローティン化されつつあることは周知の通りでありますが、お互に先づ自分の子供を充分把握し認識して、良い子供に育てましよう。

又社会環境の浄化に努め皆の力により私達の町に良い青少年を育てあげようではありませんか、このことにつきましては、長洲町正副会長会におきましても努力するよう申し合せましたので、一般の方々には、私達の趣旨にご賛同下さいますようお願い致します。

師走と正月

中央公民館長

藤末副

随筆　師走

師走と云へば、日頃よゆうのある師匠も、走り廻らねば年を越せないところから、大変いそがしい月とされている。商家と云はず農家と云はず一年のしめくくりをして、キレイサツパリ年を越そうとする人々の気持は今も昔も変らない。

借金も借りた物も、人から受けた恩義もと限りない負債を持つているのが人間である。

その重荷にたえかねてか「夜にげ」「首つり」をする人のうわさを昔は聞いたものである。

前はめつたに見かけない乞食物貰いの哀れな姿を日に何度もみせつけられ、人の世のかなしさを感じさせた。「おちぶれて袖に涙のかゝる時人の心の奥ぞしらする」と歌つた人もあれば「此の世をば吾が世とぞ思ふ望月の」と歌つた人もある。

社会補償制度の充実と、民間の人だすけ運動などで、生活に困つた人々を救おうとする気風が高まつたことは、よろこばしい。それと同時に生活に困らないよう、かねがねの心掛がのぞまれる。

文化の町をめざす、吾が郷土から乞食を無くし貧困を無くし犯罪を無くして、すべての人が生活を楽しめるようにしたいものである。

師走ともなれば人の幸不幸が近隣の話題となることが多い。人の不幸や不義理が自分と関係なしに語られているが、自己反省の材料にした方がよい。

テンポとラッシュで明けくれる今の世相を昔にかへせとは云わないが、人生の味わいをかみしめる暇もないのが昨今の生活ではなかろうか。

寒い夜おそくまでランプのあかりで着物を縫う母の姿はなつかしい。お正月には子供たちに一枚づつでもと思ふ心のあらわれであつた。

除夜の鐘に年越そばで一年の幕となつた昔の大みそかも、今はテレビにおまかせし、浅草寺や清水寺を自宅に持ちこんで、きくようになつては年越そばを食べるのも忘れてしまつた。

十二月二十五日はクリスマスとやらで、若い人たちは楽しみにしている。宗教を意識しない宗教行事になつている。まだ白い目で見る人もあるが、育つ行事すたれる行事と世はさまざまの道をたどつて移つて行く。

正月

門松

門松は一休さんに言わせると冥土の旅の一里塚だそうだが。あの若々しい翠の色もあざやかに、荒涼とした冬空を背景に立つているのは、見るもすがすがしい。平安朝の頃から始つたと云われているが、当時天皇の行幸などに、松の枝や笹竹などを家の前に立てならべて、おむかえする風習があつたそうで、今の門松の始りという。

最近はお宮や大家の門を飾る程度になり、其の数もめつきり少くなつた。資源愛護だとか、緑化運動などで、門松廃止論すらとび出す始末、でも出来れば幹でない小枝を戸口に打ちつけておく位、よさそうな気もするが、役場から配れる門松ビラでがまんして国策に協力しよう。